

新地球温暖化対策計画の具体的施策

資料1-4

1

- 推進方針
- 具体的施策
- 具体的取組

(1) 歩くまち



「人と公共交通優先の歩いて楽しいまち」の実現

○使いやすい公共交通と歩く魅力にあふれ、人々が歩く暮らしを大切にする、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」が実現している。

○自動車利用の制限を含めた様々な抑制策を通じて、クルマの総交通量は減少し、走行しているクルマは、電気自動車をはじめとするエコカーに代わっている。

進ちょく指標例

- 自動車分担率
- 市内自動車保有台数
- 自動車燃費【販売ベース】
- 市内公共交通利用者数
- エコカー普及台数

「既存公共交通」の取組(既存公共交通の利便性向上)

公共交通利便性向上施策

- 洛西地域におけるバス利便性の向上
- 京都駅南口駅前広場の整備
- 市内公共交通の共通乗車券の創設
- 交通施設バリアフリー化の推進
- パークアンドライド等による観光地交通対策
- 公共交通不便地域の生活交通維持に向けた対応策に関する検討

「まちづくり」の取組(歩行者優先のまちづくり)

「歩くまち・京都」を支える歩行空間の充実

- 東大路通の自動車抑制と歩道拡幅
- 四条通の歩道拡幅と公共交通優先化

未来の公共交通の充実

- 新しい公共交通システム(LRT・BRT(バス高速輸送システム))の導入検討

自動車交通の効率化と適正化

- パークアンドライドの通年実施
- 都心地域の建造物駐車場附置義務制度の見直し
- タクシー交通の位置付けの明確化と効果的な活用
- ロードプライシングの検討
- 交通条件の公平化(商業施設等における公共交通利用者へのサービス提供)
- カーシェアリングの更なる普及

歩行者と共存可能な自転車利用環境の整備

- 都市型レンタサイクルの普及
- 自転車利用環境の整備

「ライフスタイル」の取組(歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換)

『「歩くまち・京都」憲章』の普及啓発

- 学校教育、シンポジウム、イベント、商業施設等での普及啓発

「スローライフ京都」大作戦

- メディアを活用したモビリティ・マネジメント
- 「家庭」「学校」「職場」での交通行動スタイルの見直しを促す施策
- 「観光客」の交通行動スタイルの見直しを促す施策

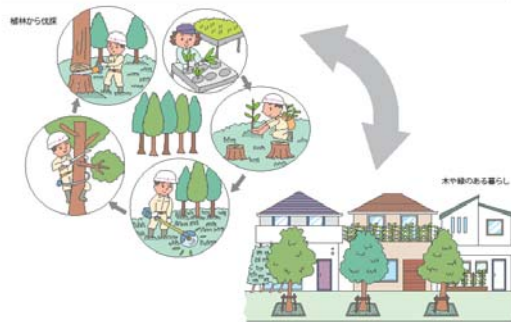
エコカーへの転換

インフラ整備の推進

- 共同住宅・民間駐車場・商業施設等への充電設備の設置によるインセンティブの創設の検討
- EV交通情報通信システムの開発

事業者・販売店を通じた利用促進

- 特定事業者への導入義務化
- 販売店に対する販売実績報告の義務化
- ハイブリッドバス・電動バスの導入促進



「森を再生し『木の文化』を大切にすまち」の実現

○市域の3/4を占める森を再生し、森に親しみ、森の恵みを都市に還元することにより、文化の醸成や産業の振興に積極的に取り組んでいる。

○地域産木材を多様に活用しながら、京町家の知恵を生かした新たな建築が促進され、持続可能な木材利用の循環サイクルが構築されるとともに、京都らしい景観形成が進展している。

○豊かな緑に囲まれ、人々が、暮らしの中で、身近に木のぬくもりを感じることができるまちが実現している。

進ちよく指標例

- CASBEE京都取得件数
- 市域産ペレット利用量
- 市街地の緑被率
- 森林面積
- 地域産木材供給量
- 「平成の京町家」認定戸数

地域産木材の活用

建築物の地域産木材利用

- 特定建築物への地域産木材の利用義務化
- CASBEE京都(※)による環境性能の高い建築物の普及促進
- 「平成の京町家」の普及推進

※CASBEE京都: 京都らしい環境配慮建築物を適切に評価・誘導するためのシステム

間伐材やペレットチップの利用

- ペレットストーブ・ボイラーの普及推進
- 木質ペレットの公共建築物への率先利用

木材利用者への情報提供

- 地域産木材ストック情報システムの整備
- ウッドマイレージ(※)のラベル化

※ウッドマイレージ: 木材の量に、木材の産地から消費地までの輸送距離を乗じたもの

森林の適切な保全

林業の振興

- 地域産木材の供給体制の整備
- 間伐材の供給に対する助成
- 林業の担い手となる人材の育成・確保

森林整備

- 地域における森林整備活動への支援
- 間伐材の搬出用作業道の開設

森づくりへの市民参加

- 森づくりサポーターの拡充
- 合併記念の森を中心とする環境学習事業の展開

水と緑と風を活かしたまちづくり

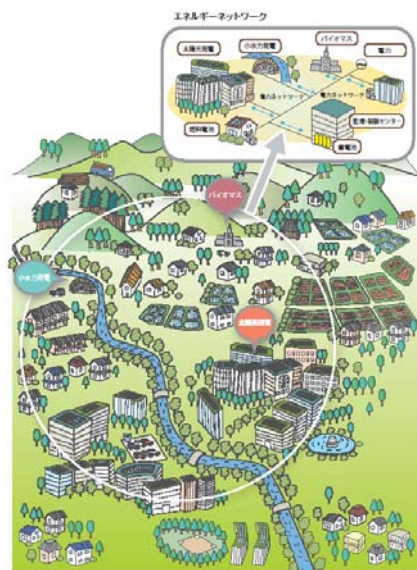
市街地の緑化

- 特定緑化建築物(※)への緑化義務化
- 屋上緑化・壁面緑化に対する助成の充実
- 市民等との協働による民有地緑化の推進

ヒートアイランド対策

- 市民農園の整備等による農地の有効活用
- 鴨川を幹とした風の道づくり
- 水と緑のネットワークづくり

※ 特定緑化建築物: 敷地面積が1,000㎡以上の新築等建築物



○太陽光や太陽熱等を利用したクリーンエネルギーの創出が市内あらゆる場所で盛んになり、ごみ等のバイオマスや河川の水力等が地域単位でのエネルギーとしての役割を果たしている。

- 太陽光発電設備の発電出力
- 再生可能エネルギー設備の導入量

公共部門における活用

- 公共建築物への率先導入(太陽光、太陽熱など)
- 小水力発電のモデル実施
- BDFの利用拡大
- 生ごみバイオガスの利用の推進
- 下水汚泥(メタンガス)の有効利用

スマートコミュニティの構築

- らくなん進都、岡崎地域等における総合特区制度を活用した新たなエネルギーマネジメントシステムの構築
- エコ・コンパクトな土地利用の促進

新地球温暖化対策計画の具体的施策

3

- 推進方針
- 具体的施策
- 具体的取組

(5) 経済活動



「環境にやさしい経済活動」の実現

○最先端の技術を誇る京都の環境産業が、省資源・省エネルギー、長寿命、リサイクルを前提とした製品やサービスの普及に先導的役割を果たし、環境と経済の好循環の下、活力ある地域づくりや世界全体の低炭素化に大きく貢献している。

○企業では、エネルギー効率の高い機器の導入が進むとともに、環境面での社会貢献活動が活発に行われ、低炭素のまちを牽引する大きな力となっている。

進ちよく指標例

- 総合評価制度における削減量
- クレジット化された削減量
- 高効率給湯機器の普及台数

環境産業の振興・育成

産学公連携による
環境技術の開発

- 研究成果を生かした環境・エネルギー関連産業等の育成・振興
- 付加価値の高い新産業を創造する京都版SBIR(※)

※ SBIR(Small Business Innovation Research): 中小事業者による研究開発とその成果の事業化を一貫して支援する制度のこと

事業拡大支援

- 低炭素社会の実現を先導する環境知恵産業(環境・エネルギー関連産業)のブランド化
- カーボンフットプリント(※)の活用による環境価値の見える化の促進
- グリーン購入の促進

※ カーボンフットプリント: 商品・サービスのライフサイクルの各過程で排出された温室効果ガスの量を、CO2量に換算して表示したもの

企業における省エネの推進

中小事業者における省エネ

- 「DO YOU KYOTO?」クレジット制度の創設(再掲)
- 高効率機器の導入に対する補助
- 環境配慮活動に対する低利融資
- 低炭素型経済活動を推進する人材の育成

大規模事業者における省エネ

- 削減計画・報告に対する総合評価の導入
- 環境マネジメントシステムの取得義務化

環境価値の創出・循環

創出の仕組みづくり

- 「DO YOU KYOTO?」クレジット制度の創設(再掲)
- エコ学区、エコ商店街など新たな「エコ・コミュニティ」の創設(再掲)

環境価値の需要拡大

- オフセット観光(※)の推進
- 会議・イベントにおけるカーボンオフセットの推進
- 京都市役所総排出量削減推進制度の創設

※ オフセット観光: 移動や宿泊の際に排出されるCO2を、クレジットの購入等によってオフセットした観光形態のこと。クレジット購入等の費用は代金に上乗せされる。

(6) ごみ



「ごみの減量」の実現

○ごみを出さない生活や事業活動が社会システムとして構築され、それを前提とした製品が普及している。
○マイバッグの持参が当たり前になり、店頭で売られる商品の包装材は必要最小限になるとともに、プラスチック製のものは激減している。

進ちよく指標例

○ごみの市受入量、焼却量
○廃プラスチックの市施設での焼却量

そもそもごみを出さない

すぐにごみになるものを
「買わない・つくらない」

○包装材削減推進京都モデルの構築
○NOレジ袋の全市展開
○レジ袋削減協定の拡大
○ごみの減量と商店街の活性化を目指す「エコ商店街事業」

事業所などから出る
ごみを減らす

○業者収集ごみの透明袋製の導入
○特定食品関連事業者への事業系廃棄物の減量
○計画書制度の対象拡大
○手数料の改定

分かりやすい情報提供と
環境学習機会の拡大

○「京のごみ減量事典」の全戸配布(再掲)

ごみは資源、可能な限りリサイクル

徹底した分別による
リサイクルの推進

○業種別のきめ細かい取組方法などの事業者向けの情報提供の推進
○クリーンセンターにおける搬入監視の強化と非分別資源ごみ及び不適物の受入拒否の実施
○使用済み天ぷら油などの回収拠点拡大

地域力を活かした
地域密着型の取組の推進

○多様な資源回収拠点拡大
○地域ぐるみの生ごみ・落ち葉などの堆肥化の推進

「学生のまち、観光のまち」
ならではの取組の推進

○イベントグリーン要綱によるイベント等のエコ化

ごみは安全に処理して最大限活用

ごみからの
エネルギー回収の最大化

○生ごみ、廃食用油等の廃棄物バイオマスからのエネルギー回収

環境負荷を低減する
ごみの適正処理

○経済性に配慮した施設の整備・運営